

8-6-1 RCCM資格制度委員会

1. 主な活動の記録

(1) RCCM 資格制度委員会の組織

委員会は更新講習 WG、技術者資格 WG、試験検討 WG の 3 つの WG と自主学習システム専門委員会で活動を行っている。

(2) RCCM 資格制度委員会の開催

RCCM 資格制度委員会は 11 回開催した。

(3) WG 等の活動

a) 更新講習 WG —更新講習会の Web 化—

令和 2 年度から、更新講習会を集会形式から Web 講習に「完全移行」した。これを受けて、WG 名を変更した。

令和 4 年度は、新たな講師の追加し、計 21 コンテンツとした。この 8 コンテンツの追加により、文部科学省卓越研究候補者選考の研究分野すべてをカバーした。

b) 技術者資格 WG —国交省技術者資格登録制度への対応—

令和 4 年度の国土交通省技術者資格（以下「技術者資格」という）は、平成 29 年度新規登録（5 年に 1 度の更新登録が必要）した点検・診断等業務の「4 施設分野、9 業務（4 技術部門にて 9 つの技術者資格登録）」について更新登録申請を行った。申請の内訳は次のとおり。

点検・診断業務として「堤防・河道」、「舗装」および「小規模付属物」。また、「港湾施設」について計画策定（維持管理）、点検・診断および設計（維持管理）の 3 業務である。

なお、申請にあたっては、当委員会、技術部会技術委員会、インフラ研および事務局の協働作業により迅速かつ円滑に実施された。

更新登録申請の結果は、登録規程第五条第一項に規定された「登録の要件等」に対する適合の判定、および、これを踏まえた登録の適否について審査された結果、全て「適合」と判定され更新登録ができた。

c) 試験検討 WG —RCCM 試験の CBT 方式化—

令和 3 年度初めてとなった CBT 方式試験の

実施を受け、問題作成者、採点者、事務局に対し、「CBT 方式試験への対応作業における改善点等意見」を集めることを目的としたアンケート調査を実施した。

アンケートは試験問題作成委員約 60 名、試験問題採点委員約 320 名、協会試験事務局数名、の合計約 380 名に依頼し、試験問題作成委員からは 17 名、試験問題採点委員からは 112 名（協会試験事務局からは回答が無かった）、合計 129 名より回答があった。（回答率は 34%）

アンケートには改善点ほか、その他のご意見として、RCCM 試験制度そのものに対するご意見も多く寄せられ、今後協会事務局にてその対応可否を検討する旨、アンケートを依頼した人にアンケート結果の報告を行った。

国土交通省技術者資格の要件について大きな変更はなく、CBT 試験に伴う特段の対応は必要なかった。

d) 自主学習システム専門委員会

更新登録に使用する建設一般 4 教材と専門技術 22 教材の自主学習教材について、原稿の審査など行った。教材は、部分的な改訂を行い、法制度、技術基準、維持・管理等の学習内容を充実させた。

(4) RCCM 登録に必要な CPD 単位の変更の周知

RCCM 更新登録に必要な CPD 単位数の移行は、コロナ禍による CPD 機会への影響を勘案し、令和 2 年度からの施行を見送り、令和 3 年度以降 150 単位/4 年、令和 7 年度以降推奨単位数の 200 単位/4 年としていることの周知を図った。

2. 次年度の活動について

新たな中期行動計画の施策「適正な資格制度の充実」の実現に向けて、今年度の活動を拡充充実し、①社会の変化に対応した資格制度の見直し、②登録更新講習（WEB）の充実、③技術者資格登録への対応、④自主学習教材の改訂と充実、⑤RCCM 資格制度の広報などを継続実施する。

（RCCM 資格制度委員会委員長 水野 雅光）